

＜ もくじ ＞	
1. 分断社会を超えて	1
2. 2017年度定時総会・第16回大会開催日のお知らせ	2～3
3. 北海道部会 市民講座 <自分らしく生き抜く力を養う> 開催のお知らせ (再録)	3
4. 研究会からのお知らせ	3～4
5. 各研究会の概要報告	4～5

1. 分断社会を超えて

一億総中流社会と言われたのは、高度経済成長期を経て、大衆消費時代を迎えた1970年代頃からでした。所得は倍増し、家庭電化製品が普及し、2DKや3DKの団地に暮らす人びとは豊かな社会の到来を実感したことでしょう。

こうした幸せな時代は、バブルが崩壊するまで続きました。長い間、私たちは、「貧乏」という言葉を忘れていたようです。「格差社会」という言葉がクローズアップされるようになったのは、小泉政権の終わりの頃。これは小泉首相が「格差なにか悪い」と暴言をはいたことがきっかけでした。しかし、実際には、それ以前、小渕政権の頃から、日本社会には格差が広がり始め、貧困が忍び寄っていました。ジニ係数とか相対的貧困という所得格差を表す統計数字が発表され、愕然としたというのが実情とっていいでしょう。

「格差社会」に代わって最近では、「分断社会」という言葉がさかんに使われるようになりました。正規雇用者と非正規雇用者の所得格差は拡大し、賃金の男女格差は解消せず、ひとり親世帯の貧困は先進国のトップレベルということが明らかになりました。

さらに在日韓国・朝鮮人を標的としたヘイトスピーチや福島から避難してきた人びとに対する差別は、日本人が寛容さを失ってきたことを示しています。ダイバーシティや共生社会の実現がスローガンとして掲げられるにもかかわらず、実際には、自分とは異なる存在への敵意や差別があらわになってきたのです。

本年6月18日(日)にお茶の水女子大学で開催されるシニア社会学会大会では、「分断社会を超えて」をテーマに井手英策・慶應義塾大学教授の基調講演に続き、ホームレスや児童養護施設出身者など社会の底辺にある人びとに対する支援活動をしている方たちをパネリストに招いてシンポジウムを開催いたします。

今日、どの国においても、所得階層だけでなく、人種、宗教、民族、思想など社会のあらゆる面において分断がみられます。私どもは、こうした分断を乗り越えて、持続可能な超高齢社会を構築する道を見出したいと考えております。



一般社団法人シニア社会学会会長
袖井孝子

2. 2017年度定時総会・第16回大会開催日のおしらせ

日時：2017年6月18日（日）

会場：お茶の水女子大学 本館 3 階306室

第1部 2017年度定時総会（10：00～10：50）

第2部 第16回大会テーマ：「分断社会を超えて—持続可能な超高齢社会をめざして2—」

第16回大会は、「持続可能な超高齢社会をめざして」の基本テーマを掲げた第3期3ヶ年計画の2年目に当たります。昨年の第1年目で「現代日本の格差と貧困」の現状を認識したあと、今年 は日本社会の将来に目を向けて「分断社会を超えて」というテーマで展開します。世界と日本における市場経済の動きと財政の仕組みによって生じた分断状況を明らかにし、超高齢社会と女性の社会 進出状況に適応しつつ分断を克服しうる社会の基本的あり方を探り、「持続可能な超高齢社会」をめざす方向性を見定めていきたいと思ひます。基調講演は、井手英策慶應義塾大学教授です。多くの方のご参加をお待ちしております。

午前中の一般報告「地域での活動から」では、現代日本の各地域で問題に取り組んでおられる会員の方々からのご報告により、「持続可能な超高齢社会」を見ていく視点を「地域での人びとのつながり」に求めていく必要性を、さまざまな切り口から提示していただく予定です。

◆ 一般報告：地域での活動から（11：00～12：00）

司会：長田攻一（当学会理事）

報告者：松村 治（早稲田大学「地域社会と危機管理研究所」招聘研究員、フクシマ避難者支援）

小平陽一（定年まで家庭科教員、立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科修了）

★ 大会プログラムの小平陽一さんの紹介に「料理教室」という誤った記載がありますことをお詫びし、謹んで訂正いたします。

野坂 真（早稲田大学文化構想学部助手、大槌町での復興支援）

<基調講演とシンポジウム>（12：50～16：30）

◆ 基調講演（13：00～14：00）

講師：井手英策（慶應義塾大学 教授）

テーマ：分断社会を超えて

◆ シンポジウム（14：15～16：20）

テーマ：「分断社会を超えて—持続可能な超高齢社会をめざして2—」

司会進行：袖井孝子（当学会会長）

パネリスト：庄司洋子（立教大学名誉教授、NPO 法人学生支援ハウス理事長）

来栖 香（キューアンドエー株式会社 広報・秘書部）

菊地 謙（ワーカーズコープちば専務理事、フードバンクちば代表）

井手英策（慶應義塾大学教授）

基調講演を踏まえて、意見交換、フロアー討論を行います。

◆ 閉会の挨拶：濱口晴彦（当学会副会長）

◆ 懇親会（17：00～18：30）

会員、非会員を問わず各地域で活躍している方々との意見交換や、いろいろと参考になることも率直に聞ける場ですので、是非ご参加ください。

また、長い間お世話になったお茶の水女子大学での開催も今年で最後になります。来年度からは、駒澤大学での開催になる予定です。

＜事務局からのお願い＞

- ★ 総会・大会への案内状および出欠ハガキを5月10日ご送付いたしました。本年は6月1日に郵便料金が改定されますので、返信葉書は5月28日までにご投函ください。総会にご欠席の方には、委任状と総会の議案への賛否を示していただく欄がございますので、そちらへのご記入もお忘れのないようお願いいたします。また、ときに、記名欄にお名前のご記入のない方がおられます。くれぐれもご注意ください。
- ★ 大会当日に、「エイジレスフォーラム」のバックナンバーを販売（価格500円）いたしますので、ご入用の方はお申し出ください。

3. 北海道部会 市民講座＜自分らしく生き抜く力を養う＞開催のお知らせ （再録）

よりよい社会を後代に残すさまざまな試みは、自分らしく生き抜く力を養う 大きな糧です。この集いが自立を確認する機会になることを願っています。

1) 日 時：2017年6月22日（木）13：30～15：30（開場13：00）

2) 場 所：札幌市教育文化会館 小ホール

札幌市中央区北1条西13丁目（Tel011-271-5821）

3) 参加費：無料（先着300名さま）

4) テーマと講師（順不同）

（1）加齢に伴う体の変化について

北海道大学理事・副学長、北海道大学大学院医学研究院 教授 笠原 正典氏

（2）諸行無常を生きる、今、何を為すべきか

札幌大谷大学前学長 巖城 孝憲氏

（3）高齢者同士の共助

北星学園大学教授 田辺 毅彦氏

（4）介護の段階の大変さと健康寿命の重要性

社会福祉法人 宏友会 地域連携室推進部長 人材育成部長 菊地 伸氏

共催：一般財団法人人材支援機構 後援：札幌市 札幌市教育委員会

4. 研究会からのお知らせ

（1）第40回「災害と地域社会」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2017年5月24日（水）18：00～20：00

★前号では5月31日とお知らせしましたが、都合により24日に変更になりました。

2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス 39号館6階第7会議室

3) 報告者：田所承己（帝京大学専任講師）

4) テーマ：「人はなぜコミュニティカフェに集まるのか？」（仮）

5) 参加費：500円（ただし、社会人を除く学生、早稲田大学総合人文科学研究センター＜現代の危機と共生社会＞研究部門および、早稲田大学プロジェクト研究所のメンバーは無料）

※ お問い合わせは、福原（fukuhara@jaas.jp）までお願いいたします。日程が変更になりましたのでご注意ください。

(2) 第44回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2017年5月25日（木） 15：00～18：00
 - 2) 場 所：早稲田大学国際会議場4階第6共同研究室
 - 3) テーマ：討議 濱口座長の論文「『老いる権利』という考え方について」を読み解き、私たちは、「持続可能な超高齢社会」を実現するために、社会とどう関与すべきであろうか。
 - 4) 参加費：300円
- ※ お問い合わせは、事務局・島村 (ken-sima1941@jcom.home.ne.jp) 迄お願い致します。

5. 各研究会の概要報告

(1) 第39回「災害と地域社会」研究会の概要報告

- 1) 日 時：2017年4月25日（火） 18：00～20：00
- 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス 39号館6階第7会議室
- 3) 報告者：吉野ヒロ子（帝京大学専任講師）
- 4) テーマ：「インターネット世論と災害」
- 5) 報告概要：

インターネットを媒介とした会話は、短い言葉のやり取りを中心とするため、言葉の背後にある脈絡を無視して、会話の当事者間で共有されるのは正・不正、善悪、好悪をめぐる感情になりがちであることから、「炎上」が生じやすい傾向があります。吉野ヒロ子さんは、「炎上」を「たくさんの方が批判していることが、多くの人から見えている状態」であることに注目し、多くの方が関心を持つ大規模災害は、「炎上」を引き起こしやすいといえます。

災害時のネットの特性を、①リアルタイムでの情報共有と、②ローカルな情報のすくい上げに求め、災害対応に生かされた事例を紹介しつつ、マスメディアとの比較を通じて、その功罪を論じた後、「熊本地震災害」後の2016年7月にウェブモニタ調査（吉野さんも参加）を行った結果が報告されました。厳選された1119名からの回答によると、①熊本地震に関する書き込み経験率は、若い世代ほど多い、②不謹慎批判書き込みを見た人の率は、意見を書き込んだ人の率よりもかなり高い、③被災者を思いやる内容の書き込み以外は自粛すべきだと考える人が多く、年齢が高い人が多い、などの結果がえられたということです。そして、ネットを媒介とした世論の特徴を、先行研究によっていくつか整理し、それらの議論を背景に、①災害支援にインターネットメディアの特性は初動対応でも長期的支援でも有効である、②支援の盛り上がりには、ネット世論の支援が必要、③それらには、逆効果もあるので注意が必要、などの点が強調されました。本研究会では、あまり議論されてこなかった問題だけに、活発な質疑応答と議論が行われました。（長田記）

(2) 第101回社会保障研究会

- 1) 日時：2017年4月26日（水） 18：00～20：00
- 2) 場所：日本労働者協同組合会議室（豊島区東池袋1-44-3池袋ISPタマビル8階）
- 3) 講師：袖井孝子（シニア社会学会会長）
- 4) テーマ：人生の最終段階における意思決定について考える
- 5) 報告概要：

近年、人生の最終段階を自分の意思で決めることに関心が集まっている。その理由としては次のような点があげられる。①医療技術の発展にともなう選択肢の拡大、②医師中心の医療から患者中心の医療への変化、③家族内に代行決定者のいないひとり暮らし世帯の増加、④看取りや葬送に関する地域社会の伝統や慣習の崩壊、⑤集団指向から個人指向へという意識の変化、などである。

厚生労働省「人生の最終段階における医療の決定のプロセスに関するガイドライン」によると、意思決定能力がある場合には、本人の意思が最優先されるが、意思決定能力を欠く場合には、医療者や家族などによる話し合いを経て、本人の意思を推定して代行決定することが推奨されている。

意思決定能力を欠く認知症患者の増加や本人に代わって決定する人のいないひとり暮らし世帯の増加は、本人の意思を推定し、最善の利益を実現するための工夫が欠かせない。日本では、家族が決定していることが多いが、家族が必ずしも患者の最善の利益を代弁できるとは限らないし、決定を下した後ではたしてその判断が正しかったのかと悩む家族も少なくない。患者の心身の状態、治療方法、予想される結果などについて家族が理解を深めるための支援が必要である。本人の意思を推定するためには、本人の希望、価値観、信念、ライフスタイルなどを記した事前指示書が手掛かりになるだろう。

代行決定者がいない場合には、成年後見人が代わって決めるということも考えられるが、成年後見人が直面する悩みや困難を解消するうえで、適切な支援が望まれる。

人生の最終段階を心穏やかに過ごすには、本人の意思が尊重されるような支援が必要であり、何を決めるかよりも、どのように決めるか（advance care planning）が重要である。

（袖井孝子 記）

（3）第43回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

- 1) 日 時：2017年4月27日（木） 15：00～18：10
- 2) 場 所：早稲田大学国際会議場4階第6共同研究室
- 3) テーマ：濱口座長のレクチャー 「『老いる権利』という考え方について—持続可能な超高齢社会の品質証明—」

濱口座長は該レクチャーに当たり19ページに及ぶ論文を執筆された。

- ・「老いる権利」ということばは、市民権を得ていないが、社会権の1つに加わる日の来ることを願っている。
- ・「持続可能な超高齢社会」を目指すために、「老いる権利」という考え方が社会の品質を証明するために必要である。
- ・「老いる権利」を「エイジング」に置き換えると、老いることは当然の権利になる。
- ・いまこそ政治への関与を真剣に考え、憲法を語り、社会保障の中で格差・貧困を位置づけて行く必要がある。
- ・AI（人工知能）、BI（ベーシックインカム）の時代を迎えて、これからは「I」私という基本的人権がなお一層大切になる。

※ お問い合わせは、事務局・島村 (ken-sima1941@jcom.home.ne.jp) 迄お願い致します。

一般社団法人シニア社会学会・事務局（月・水・金オープン）
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-15-5 パールビル4階
電話&FAX：(03) 5778-4728
eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：<http://www.iaas.jp/>